

東北運輸局長就任記者会見概要

日時：7月9日（金）14:00～14:45

場所：4階海技試験室

< 田中局長就任挨拶 >

田中と申します。どうぞよろしくお願いたします。

お手元に経歴を配布させていただいておりますが、前職は国土交通省の大臣官房秘書室長をしておりました。その前に履歴の方では内閣審議官ということになっておりますけれども、こちらは、内閣官房のまち・ひと・仕事創生本部事務局次長をしておりまして、東北も含めて地方創生に関わる仕事をさせていただいております。このたび東北で直接地方創生に携わる機会を得られたことに大変うれしく思っております。

2021年という年は、東北にとりましては東日本大震災から10年目という節目の年でございます。地域の皆様のご尽力によりまして被災地の復旧・復興に向けた取り組みは、ハード面では特に鉄道路線が全て復旧するなど着実に前進してきたと聞いております。このたび、第二期復興・創生期間に着任したわけですが、今後も引き続き被災地の多様なニーズにきめ細かく対応しつつ、被災地の自立につながり、地方創生のモデルとなるような力強い復興を実現して参りたいと考えております。10年目は節目の年ではございますが、まだまだ中間点であると認識しております。街の賑わいの創設に向けまして地域に望ましい交通サービスを作るための計画策定のお手伝いですとか、滞在型コンテンツの充実強化などの観光振興を含めて皆様と連携しながら取り組んで参りたいと考えております。

実は10年前の今頃は、私は日本政府観光局のニューヨーク事務所におりました。震災の直後に着任したのですが、大震災で無くなってしまったインバウンドをこれからどうしようと思ったときに着任いたしました。それから4年間ニューヨークで日本のプロモーションを行ってございましたけれども、この4年間はまさに東北の復興とともにあった4年間だったと考えております。今振り返りますと、例えば弘前城の桜、これはアメリカ人にも非常にビジュアル的に分かりやすい日本のイメージとしてたくさん使わせていただきましたが、あるいは角館の樺細工ですとか、二戸の漆ですとか、様々な東北の歴史文化を紹介させていただきました。あるいは米沢のど真ん中弁当などの駅弁をニューヨークで売り出したことがありまして、これはアメリカ人に非常に大人

気でしたし、秋田の竿灯祭りの巨大な竿灯をニューヨークの真ん中の駅に持ち込んだり色々取り組みをさせていただきました。その10年後にこうして東北に来るということで、非常に不思議な縁を感じております。10年前にアメリカ人にも東北は響くということを肌身で実感して参りましたので、今こちらでコロナという課題も抱えておりますが、東北は必ずこれまでの流れを取り戻すことができると、さらにその先強く成長していくことができると確信しております。

少し昔話をしてしまいましたが、このたび東北運輸局に着任しまして、心構えとしましては、国土交通省は危機管理官庁でありますので、自然災害や事故、こういったところに関しては、しっかりと危機管理に対応して参りたいと考えております。それから第二に、地域交通や運輸交通サービス、こういったものは国民の皆様の生活を守る、あるいは国の経済活動を支えるための重要な社会インフラであるということでございますので、安全・安心を提供する、これを第一にしっかりと取り組んで参りたいと考えております。その上で、今、東北あるいは日本を含めてそうですけど時代の転換点に立っていると考えております。まずはコロナ禍ということで今まで想定もしていなかったような事態でございます。今後ワクチン接種が進んで、落ち着いた状況になっても2年前、3年前の社会には戻らない、私たちの行動様式も変化しております。こうした時代の流れ、時代の転換点ということは常に認識しないといけないと思います。まずは、今の時点では事業者の方を誰も置き去りにしないようにきめ細かく支援していくということが、一丁目一番地でございますが、その先を見据えて新しい時代のための取り組み、こうしたこともしっかりと考えていかなければならないと思います。それからさらにデジタルトランスフォーメーション、こうした流れも加速化しており、コロナ禍の中でさらに波が強まっております。運輸や観光におきましても時代に見合ったデジタル化・オンライン化をしっかりと取り込んで強靱な産業にしていくということが必要だと思っております。こうした時代の転換に対応するためにも、私の方では一人でも多くの方に様々なお話を直接お伺いすること、情報収集を大切にしたいと思っております。色々な方に情報をお伺いして、データを分析していく、それとともに新しい時代ですので、連携を大切にしたいと思っております。運輸局だけで仕事をする時代、これはもう過去のものと考えて、より幅広い方々と連携していきたいと思っております。国の出先機関もたくさんございますし、自治体の方、あるいは官民連携も業種を超えて色々な方と連携できるのではないかと思います。あるいはNPOの方、消費者の方、ユーザーの方、そうしたネットワークを広げて時にはコーディネート役になり、あるいは自ら連携していくことで東北の力をさらにパワーアップさせることに貢献できればというふうに考えております。せっかくメディアの皆さんがたくさんお集まりですので、お願いがございまして、私ども運輸局では様々な情報を提供させていただいておりますし、それから運輸局長としても定期的に記者会見をさせていただいていると聞いておりますが、こうしたと

ころで色々と情報提供して参りますので、是非とも記事かニュースか引き続きご協力をお願いしたいと思ひます。

東北は観光に限らずまちづくりなども含めて、非常に良いコンテンツがたくさんあると思ひておりましたが、いささか地味なところもあるのではないかと思ひておりました。Googleトレンドで“東北観光”というキーワード検索をすると2019年と比べると検索回数は少ないのですが、最近少し上がり始めているということは非常に良いニュースだと思ひますが、これが東北と関西を比べると東北のキーワードが少ないんですね。九州と比べても少ないし、北海道と比べると比べものにならないということで、この背景には東北の情報量をもっと増やさないといけないということがあるのではないか思ひます。今後のインバウンドを考えて外国人は何を検索しているのかというふうに思ひましたところ、例えば2年前、中山道が非常に欧米人に人気だったのですが、中山道をローマ字にして検索したところ、今の時代でも検索している人がいます。私は中山道がうけるのでしたら、奥の細道も絶対にいけると思ひますが、ローマ字で中山道と奥の細道とを比べると全然違うんですね。更に瀬戸内と比べると瀬戸内のトリエンナーレは有名なので、外国人がもっと検索しておられます。さすがに熊野とか検索していませんと思ひましたら、熊野はそれの上をいっていると。高野山はさらにもっとすごいということで、ローマ字の検索が少ないその背景には、日本人もまだまだ東北のことを知らないのではないかと思ひておまして、私どもも一生懸命情報を出していきたいと思ひておられますので、ぜひ東北を全国のトレンドに乗せて全世界に発信して行くことができるように皆様と連携できればと思ひます。プロフェッショナルなメディアの皆様に、どうしたら東北がトレンドに乗るのか、どういうストーリーラインがうけるのか、そういうこともお伺いできればと思ひますし、皆様と一緒に東北をさらにパワーアップさせて行くことができると思ひますので、今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。